

# この時期の灯油100円台は異常な高値、「ふくし灯油」の実施を札幌市に申し入れる！

11月2日（金）、道生連、札幌社保協、北商連、新婦人道本部、道生連は、秋元克広・札幌市長に対し、灯油代の一部を補助する「福祉灯油」の実施を緊急要請しました。この行動には市内6単組・14人、全体で5団体19人が参加しました。



人命に関わる問題を経済的効果と比較するなどあつてはならない

要請の冒頭、新日本婦人の会道本部の鈴木由妃江事務局長が秋元克広札幌市長代理で対応した富樫晋保健福祉局総務部長に要望書を手渡しました（写真・上）。

その後、細川副会長が、「本格的な冬を前にして灯油が100円台になりました。今後も下がる気配がないと言われています。高齢者や障害者の世帯、ひとり親世帯、生活保護世帯など札幌市には約50万世帯の低所得世帯がありますが、この事態に途方に暮れています。夏には暑さに寄る熱中症で亡くなる事件が起きました。このままでは命に関わる問題が発生する恐れがあります。『あつたか応援資金』などの貸付金や福祉灯油の実施を

要望します」と要望主旨を述べました。

また、昨年度で全道で96市町村・53%の自治体が「福祉灯油」を実施したのに、札幌市は2008年に「あつたか応援資金」を実施して以来、なんの施策も行っていないこと、「福祉灯油」の要望に対しては、「多額の資金がかかるが効果が限定的」と言っている実施しなかったことに対して、「人命に関わる問題を経済的効果と比較するのは、地方自治法の『住民の福祉を増進する』の立場ではない」と指摘し、実施を強く求めました。

札幌市は「今後の価格動向をみて判断」と回答

申し入れでは、石塚隆之・北商連会長、木幡



秀男・道社保協事務局次長、鈴木由妃江・新婦人道本部事務局長、岡崎恵治・低所得世帯当事者がそれぞれの立場から「福祉灯油」の実施等を求めました（写真・左）。

富樫部長は、「これまで経済的効果を考え実施しない判断をしたこともあった。今後の灯油価格の動向を見て判断したい」の回答にとどまりました。

## ふくしの窓

<2018年11月10日 第1128号>

北海道生活と健康を守る会連合会（道生連）  
札幌市西区八軒8条東5丁目4-18  
☎ (011) 736-1722  
FAX (011) 736-1688  
メールアドレス: doseiren@joy.ocn.ne.jp